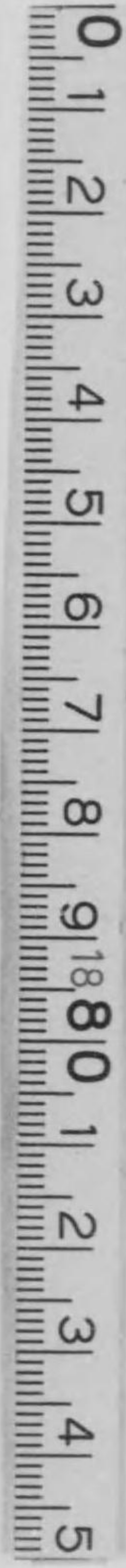


275.6

12

通俗教育施設概要

国立国会図書館



始



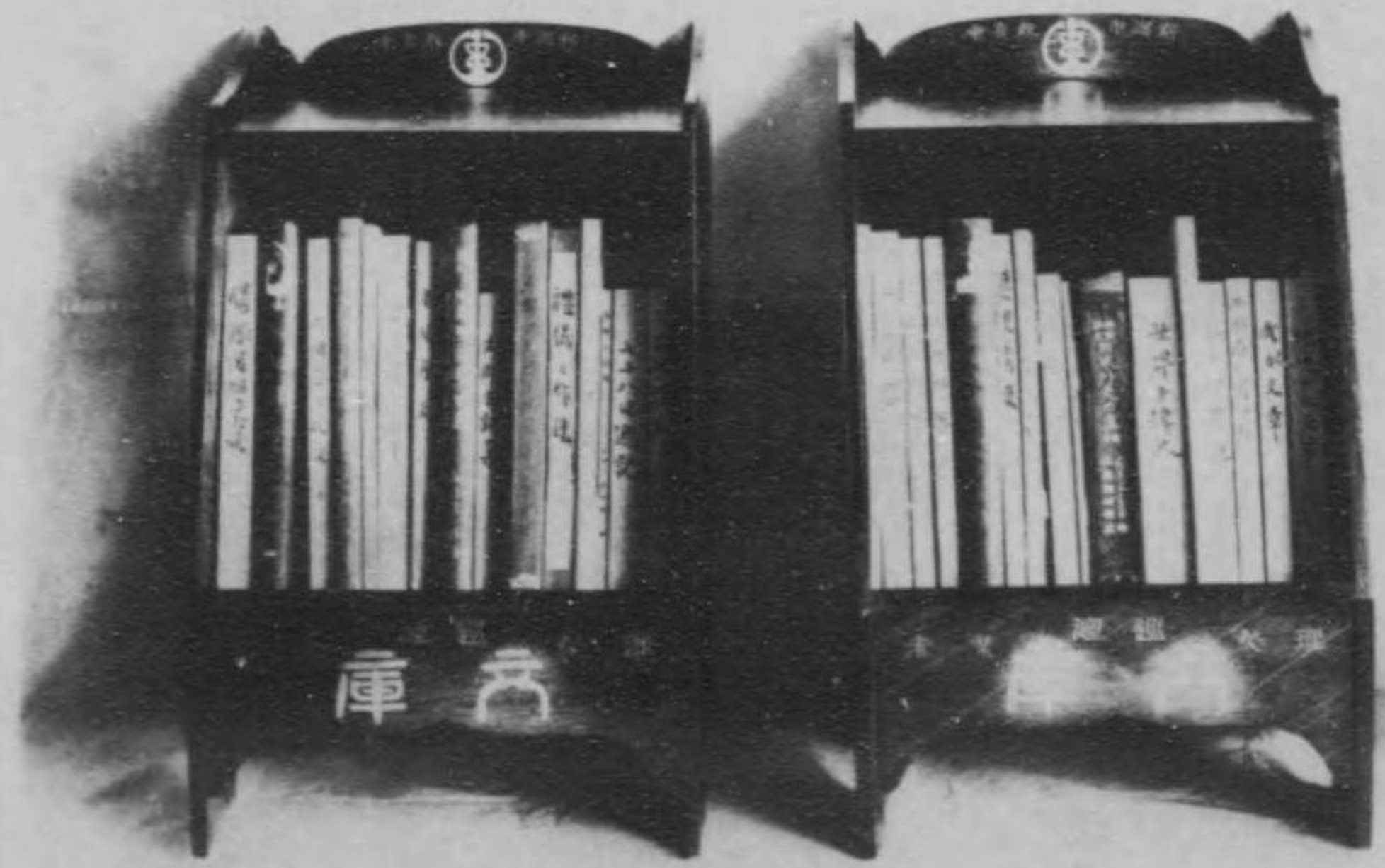
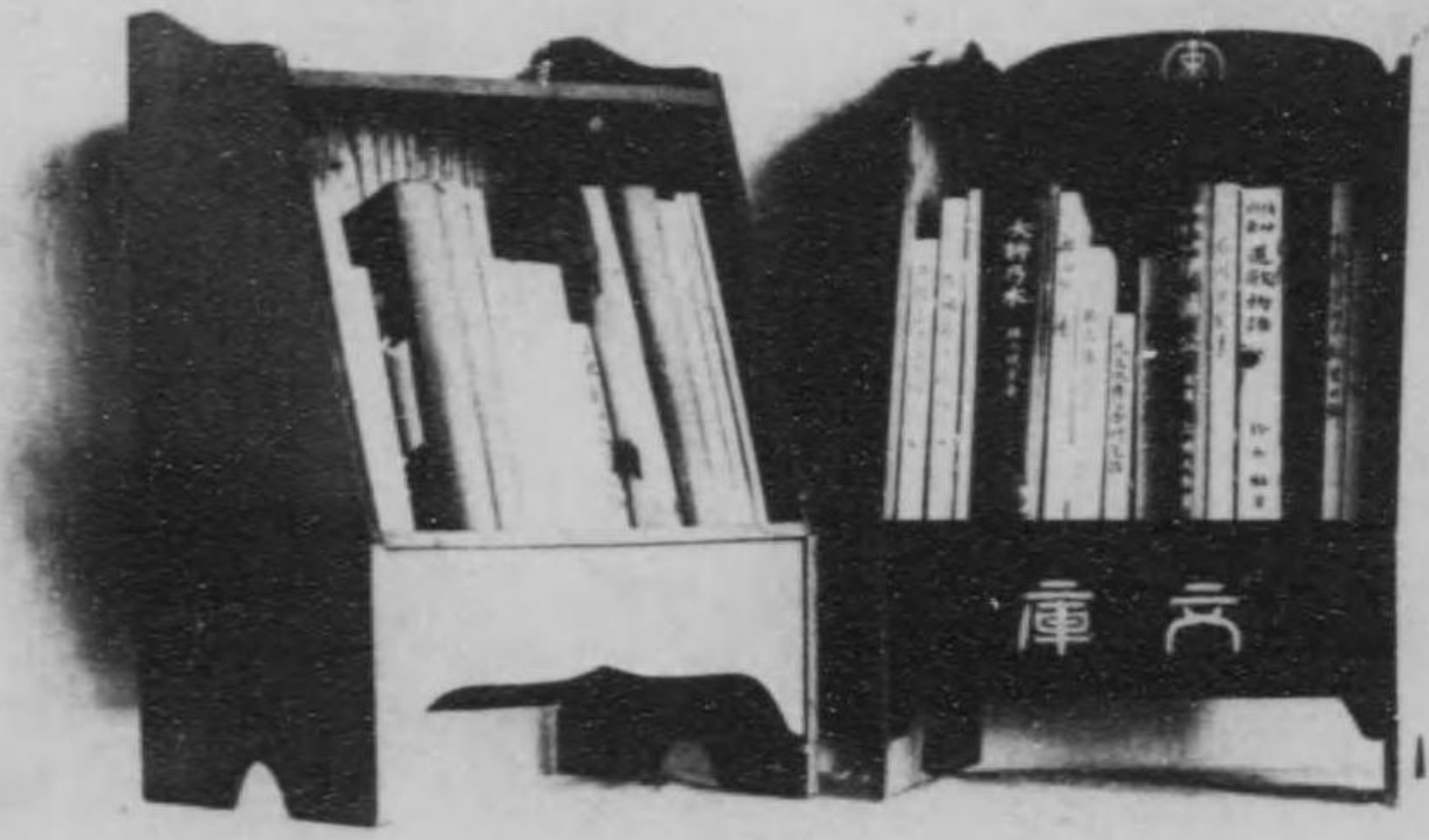
工ト7M-64

通俗教育施設概要

新潟市教育會



2756-12



寄贈本

大正
7 7 . 1
寄贈

目次

一、通俗教育部ノ設置	一
二、通俗教育ノ施設	三
(1)、市民公德養成方案	三
(2)、通俗講演會	四
(3)、展覽事業	四
(4)、巡回文庫	三
(5)、職業的教育施設	三
(6)、郷土歌作製	三
(7)、體育施設	三
(8)、活動寫眞調査	三
(9)、通俗教育施設調査	三
(10)、印刷物頒布	三
(11)、通俗教育部總經費	三
(12)、大正七年度計劃	三

新潟市教育會通俗教育施設概要

一、通俗教育部ノ設置

大正二年五月二十四日、本會總集會ニ於テ、通俗教育普及ノタメ本會ニ通俗教育部ヲ特設スルコトヲ議決シ其規程ノ設定ハ之ヲ商議員會ニ委任セリ。依テ同年七月五日商議員會ヲ開キテ別項通俗教育部規程ヲ定メ、同月十日會長ハ該規程第三條及第七條ニ依リ、通俗教育部委員及書記ヲ囑托シタリ、同年八月三日第一回委員會ヲ開キ、本部ニ委員長一名常任委員三名ヲ置クコトヲ決議シ、其選任ヲ會長ニ一任セリ。

●通俗教育部規程

- 第一條 本部ハ市民ニ對シ通俗教育ヲ普及スルヲ以テ目的トス。
- 第二條 本部ハ新潟市教育會通俗教育部ト稱ス。
- 第三條 本部ニ委員十五名ヲ置キ、會長之ヲ囑托ス。
- 第四條 本部ニ於テ調査經營スル事項左ノ如シ。
 - 一、公德養成ニ關スルコト、
 - 二、教育展覽會、通俗講演會開催ニ關スルコト。
 - 三、圖書館巡回文庫ノ普及經營ニ關スルコト。
 - 四、市民體育施設經營ニ關スルコト。
 - 五、職業團體ニ對スル指導方法ニ關スルコト
 - 六、諸興行物取締ニ關スルコト。
- 第五條 委員會ハ毎月一回之ヲ開ク。

但必要ニ應ジ臨時會ヲ開クコトアルベシ。
第六條 本部ハ縣教育會、青年會等事業上必要ト認ムル團體ト氣脈ヲ通ジテ活動ヲナス。
第七條 本部ニ書記一名ヲ置キ、會長之ヲ選任シ、庶務ニ從事セシム。

●本會役員及ビ本部委員

會長 坂本有隣
副會長 五十嵐巳之松
幹事 小林長四郎、根津音七、木村一雄
通俗教育部委員

市長
市參事會員
新潟師範學校長
新潟商業學校長
湊尋常小學校長
櫻井市作
關口照造
江口安之
松田多七
薄田大七
江部大治
林部大治
會津亦質
藤田簡吉
安倍九二
山中樵

新潟圖書館司書

新潟高等女學校長
新潟縣視學

矢浪淑次郎
田中貞三郎
(缺員二名)

●委員長
●常任委員

坂本有隣
江口照造
林口靜治
薄田多七
薄田多七

●書記

二、通俗教育ノ施設

(1) 市民公德養成方案

- 第一 本市民ノ公德ニ關シ特ニ左ノ各項ニ重キヲ置キテ之ガ助長ニ努ムルコト。
 - (一) 集會、退散ニ關シ時間及ビ秩序ノ確守。
 - (二) 選舉ニ關スル政治道德ノ發達。
 - (三) 協同心ノ修養。
 - (四) 公共營造物ノ尊重。
 - (五) 市民トシテノ品位及ビ市ノ體面ヲ尊重スルノ觀念。
 - (六) 納稅義務ノ尊重。
- 第二 前項ニ對スル實行方案左ノ如シ
 - (一) 市立小學校及ビ市内中等學校等ニ於テ、教授訓練上ニ層厚ク注意シ、前項各號ニ對シ其精神ニ觸

レシメ、且アラユル機會ヲ利用シテ之ガ實行ノ習慣ヲ與ヘンコトヲ努メラル、様、當該學校長ニ求ムルコト。

四

- (一) 通俗講演會ニ於テ、特ニ重キヲ置キテ公德養成ニ關スル講話ヲ爲スコト。
- (二) 本會々員タル者ハ互ニ相誠メ、率先シテ前項各號ノ實行ニ努ムルコト。
- (三) 通俗講演會ニ於テハ特ニ時間ニ重キヲ置キテ開會スルコト。
- (四) 事情ノ許ス限リニ於テ前項各號ニ關シ、注意ヲ喚起スベキ教訓又ハ格言等ヲ公園、會堂、徵稅令書案内狀等ニ榜示又ハ印刷スルコト。
- (五) 常ニ公衆ノ行爲又ハ出來事等ニ注意シ適當ナル時期ニ於テ公德ノ實行ニ關シ、新聞紙又ハ印刷物ヲ以テ市民ノ注意ヲ喚起スルコト。

(2) 通俗講演會

●通俗講演會實行方法

- 第一 通俗講演會ハ一ケ年約十八回之ヲ開ク。
- 第二 通俗講演ハ道德、教育、軍事、衛生、理科、警備、産業、美術、工藝、貿易、交通、其他本市民ニ適切ナル事項ニ關シ題目ヲ定ムルモノトス。
- 第三 通俗講演會ノ實行ニ關シ、會長ノ囑託ニヨリ委員三名ヲ置キ一切ノ事務ヲ處理セシム。
- 第四 通俗講演會ノ實行計劃ハ、委員ニ於テ毎年度ノ始メニ之ヲ定メ、會長ノ承認ヲ經ルモノトス。
- 第五 委員ノ見込ニヨリ適宜餘興ヲ加フルコトアルベシ。
- 第六 委員ハ毎年度ノ終リニ於テ其功程ヲ記録シ、會長ニ報告スルモノトス。

- 委員
- 林 靜 治 薄 田 多 七 (一名缺員)

●大正二年度通俗講演會概況

本年度通俗講演會ハ、從來ノ實績ニ鑑ミ、主トシテ市民ノ聽講趣味ヲ喚起シ、兼ネテ公衆會同ノ際ニ於ケル公德養成ヲ主眼トシ、講話ヲ平易ナラシメ、學童ノ談話唱歌等ヲ交ヘ、時間ヲ確守シ、會場ノ秩序ヲ保タンコトニ努メ、十月ヨリ翌年三月ニ至ルノ間ニ、市内各小學校及積善組合仁堂ヲ會場トシテ之ヲ開催セルコト八回ニ及ベリ。幸ニシテ毎回多數ノ聽講者ヲ誘致セルノミナラズ、回ヲ累スルニ從ヒ會衆ノ公德漸次進歩シ教育ノ効果尠カラザリシヲ認メタリ。(兒童ノ學藝ハ大ニ聽衆ノ感興ヲ惹起セリ) 今左ニ講演題目、講師、餘興及其經費等ヲ掲グ。

- 一、講演題目及講師。
 - 人體機關ノ協力及分業。 醫學專門學校教授 藤 田 敏 彦
 - 國運發展ト納稅義務。 稅 務 署 長 原 金 吾
 - 度量衡ニツイテ。 縣 技 師 木 村 外 次 郎
 - 内職ノ普及ニツイテ。 新 益 社 長 安 藤 文 祐
 - 市民ノ品位及自治心ノ向上。 警 察 署 長 石 井 半 助
 - 家庭教育。 師 範 學 校 教 諭 中 川 秋 坪
 - 育兒衛生談。(婦人會) 醫學專門學校教授 岩 川 克 輝
 - 親ノタメノ子カ子ノタメノ親カ。 中 學 校 教 諭 小 黑 猶 一
- 二、餘興 兒童ノ學藝、講談、琵琶、琴、ヴァイオリン、尺八、實物幻燈等。

- 三、聽衆 三、四〇〇名 (回数八回、一回平均四二五名)
- 四、經費 八三、五二 (一回平均拾圓四拾錢六厘)

●大正三年度通俗講演會概要

本年度通俗講演會モ大體昨年度ノ方針ヲ襲ヒテ開催セルモ、餘興ハ多ク之ヲ用ヒズ。又沼垂ト合併ノ結果開會度數増加シ、五月ヨリ翌年二月ニ至ルノ間ニ於テ之ヲ開クコト實ニ十六回ニ及ビ、毎回盛況ヲ呈シ市民教育上其効著シキヲ認メタリ、講演題目、講師、經費等左ノ如シ。

- 一、講演題目及講師
 - 協同ノ精神。
 - 初夏ニ於ケル小兒ノ疾病及其攝生。(婦人會)
 - 家庭教育雜感。
 - 輸入防遏ニツイテ。
 - 市民ノ公德ニツイテ。
 - 火ノナキ所ニ烟ハアガラヌ。
 - 精神修養ト貯金。
 - 温故知新。
 - 日本婦人ノ特性。(婦人會)
 - 道德的智識ト實踐躬行トノ關係。
 - 保護者ノタメニ。
 - 新潟港ノ將來。
- 師範學校校長 江口照造
- 醫學專門學校教授 岩川克輝
- 師範學校教諭 中川秋坪
- 物産陳列館長 長谷川剛之允
- 縣視學 市橋長治
- 那便局長 中川秋坪
- 佛教大學講師 喜多孝治
- 高等女學校校長 齋藤唯信
- 礎學小校長 眞柄虎作
- 學務委員 中村源三郎
- 若井種次郎

- 築港ニツイテ。(二回)
- 皮膚ノ衛生
- 愛國ノ精神
- 二、餘興 兒童ノ學藝、講談、琵琶、琴、ヴァイオリン、彈琴、蓄音器、浪花節、
- 三、聽衆 六四、〇〇名(回数一六回、一回平均四〇〇名)
- 四、經費 一三六圓二五五 (一回平均八圓五十一錢六厘)
- 築港 技手 尋木規一
- 醫學專門學校教授 杉村七太郎
- 眞柄虎作

●大正四年度通俗講演會概要

本年度通俗講演會ハ大體前年度ノ方針ヲ踏襲セシモ、其特異ナルモノニアリ、一ハ本會主催兒童教養資料展覽會ト連絡シテ兒童教養ニ關スル繼續講演ヲ試ミタルコトニシテ、一ハ本會ニ於テ 大禮奉祝會ヲ開キタル日ニ於テ、同時ニ市内各小學校ヲ會場トシ、記念講演會ヲ開キ國民精神涵養ニ務メタルコト是ナリ、

- 一、講演題目及講師
 - 新潟築港ニツイテ。(三回)
 - 食物ニツイテ。(婦人會)
 - 人間ト同居スル有害動物。
 - 夏ノ衛生。
 - 人間ノ三大事。
 - 金儲ノ秘訣。
 - 御大禮ノ要旨。(二回)
- 築港 技手 尋木規一
- 師範學校教諭 川村博士夫人
- 同 田代開市
- 師範學校校長 江口照造
- 縣農會技師 眞柳辰亮
- 彌彥神社宮司 今泉定介
- 高松四郎

○展覽會連絡講演

小兒ノ死亡ニツイテ。
小兒ノ夏季ニ於ケル疾患ニツイテ。
如何ニシテ子供ヲ丈夫ニ育ツベキカ。
兒童ノ讀物ニツイテ。
玩具ニツイテ。

醫學專門學校教授 岩川克輝
同校助教授 同 人
圖書館司書 木村茂太郎
師範學校教諭 山中 樵
宮林豐作

○御大禮記念講演
御即位 勅語ノ御趣旨。

(會場九、講師九名)

內務部長	平塚廣義
地方課長	石田馨
師範學校教諭	中川秋坪
同書館司書	山中 樵
縣視學	福原 條
同	矢口 正
縣屬	瀬口 義
師範學校教諭	近藤 兵
中學校教諭	内尾 政
	尾 政
	玄

- 二、餘興 兒童學藝、講談、琵琶、實物幻燈、教育劇、理化實驗、
- 三、回數及聽衆 二三回、八二八〇名(一回平均三六〇名)
- 四、經費 一三〇圓四一(一回平均十圓二錢)

●大正五年度通俗講演會概要

本年度通俗講演會ハ、時局ニ鑑ミ、理科、工藝、體育及衛生ニ關スル思想普及ヲ主眼トシテ開催シ、又昨年ノ試ミヲ承ケテ繼續講演ヲ開キ、特殊講演トシテハ旅館料理店ノ女中對スル講演會ヲ催シタリ。
繼續講演ハ二回乃至四回繼續トシ、毎土曜日ニ開會セシカ、毎回ノ聽衆ニ大差ナク、極メテ眞面目ニ聽講セルヲ認メ其効果尠カラザリシヲ信ズ。
女中講演會開催ノ主旨ハ近年實業ノ發達ト交通機關ノ完備トニ伴ヒ、當市來往ノ旅客日ヲ逐フテ増加スルヲ以テ、平素是等旅客ニ接スル機會ヲ多ク有スル所ノ旅館及理店料ノ女中ヲシテ市ヲ紹介説明セシムルコトハ、本市發展ノ上ニ資益スル所少カラザルベキヲ思ヒ、右女中ニ對スル講演會ヲ開キ、本市ノ名所、舊蹟交通產物其他市勢ノ大要ヲ知ラシメ、尙之ト同時ニ作法心得ヲ講話シ、旅客待遇ノ改善ヲ圖ラシメントスルニアリ。本演講ハ彼等ニ刺激ヲ與ヘ彼等ノ覺醒ヲ促シタルコト少カラザリシヲ認ム、

- 一、講演題目及講師
 - 歐洲戰亂ト化學工業。 高等女學校教師 金川 禎 英
 - 共鳴ノ話。 醫學專門學校教授 藤田 敏 彦
 - 學校醫トシテ兒童保護者ニ對スル希望 (婦人會) 學 校 醫 山田 直 治
 - 乃木大將ト模範生。 (少年會) 朽木縣教育會囑托 藤田 南 鶴
 - 化學ト獨逸。 醫學專門學校教授 金川 禎 英
 - 傳染病特ニコレラニツイテ。 醫學專門學校教授 宮路 重 嗣
 - 航空機ノ過去、現在及將來、 (二回) 金川 禎 英

齒牙ニ關スル衛生。(四回)

○繼續講演

日常ノ衣食ト自然ノ樂ミ。(四回繼續)

織物ノ話。(二回繼續)

○女中講演 (二回)

市ノ產物。

市誌大要。

作法心得。

二、餘興

三、回数及聽衆

四、經費

日本聯合醫師會囑托

師範學校教諭

縣技師

物產陳列館長

商業會議所書記

高等女學校教諭

一〇

向井喜男

田代開市

澁谷廣次

長谷川剛之允

風間正太郎

高田せん

●大正六年度通俗講演會概要

本年度通俗講演會ハ大体前年度ト同ジク、一回講演繼續講演、婦人會、女中講演會等ヲ開催シ、尙理工工藝衛生展覽會トノ連絡講演會ヲモ催セリ。

一、講演題目及講師

自然ノ征服。

ラヂムトハ一体何カ。

店頭裝飾ニツイテ。

(本講演ハ店頭裝飾競技會ト連絡ヲ探レルモノ)

高等女學校教諭

物產陳列館長

同

金川禎英

同

長谷川剛之允

子供躰方ニツイテ。(婦人會)

航空機ニツイテ。

迷信ト誤解。(二回繼續)

海外旅行談。

以下展覽會ト連絡講演

電流ト電池。

無線電信ニツイテ。(二回)

日本人ノ體格ニツイテ。

教育ト衛生。

衣類ニツイテ。(二回繼續)

高等女學校長

師範學校教諭

同

矢浪淑次郎

金川禎英

田代開市

富山虎三郎

同

金川禎英

同

高橋辰五郎

長井千尋

澁谷廣次

產科婦人科病院長

胃腸病院長

縣技師

同

同

同

女中講演會 (二回)

市ノ產物ニツイテ。

市誌大要。

作法心得。

旅客感想談。

同

湊小學校長

高等女學校教諭

本會長

長谷川剛之允

薄田多七

畑野マツエ

坂本有隣

長谷川剛之允

二、餘興 講談、琵琶、蓄音機。

三、回数及聽衆 一四回、三八六〇名(一回平均二七六名)

(來會者ニハ市誌摘要、物產陳列館案内各一部及產物標本菓子一袋ヅ、配布セリ)

四、經費 金百參拾六圓九拾貳錢（一回平均九圓七八）

◎活動寫真會

保險及貯蓄思想鼓吹ノ目的ヲ以テ縣教育會及新潟郵便局ト聯合シテ大正六年十二月六、七ノ兩日、改良座於テ活動寫真會ヲ開催シ、一般市民ノ無料觀覽ニ供シタリ

一、寫真

- 1、近江震災ノ慘狀
- 2、貯金のすすめ
- 3、蟻どきりくす
- 4、保險劇隣同志

二、講話

- 1、開會ノ趣旨

坂本本會會長
江口縣教育會會長

- 2、保險及貯金ノ必要

小田部新潟郵便局長
田邊東部逓信局保險課長

三、經費 金八拾五圓八拾六錢

內本會支出金四拾九圓

四、入場人員 約三千六百名

(3) 展覽事業

一、郷土博物館建設ノ建議

大正三年六月十二日本會ノ議決ニヨリ會長ヨリ左ノ建議ヲ市長ニ提出セリ。

郷土博物館建設ノ儀ニ付建議

凡ソ通俗教育ノ事業タル其種類少カラズト雖モ其最有効ナルモノハ蓋展覽事業ナランカ、展覽事業ハ主トシテ目ニ訴フル所ノ通俗教育施設ニシテ世人ハ之ニ依リ時間ト努力トヲ費スコト少クシテ容易ニ諸般ノ智識ヲ獲得シ、且之ヲ確實ナラシムルヲ得ベシ。所謂百聞一見ニ如カザル者是ナリ。（中略）展覽事業ニモ亦種々アリ現ニ歐米諸國ニ行ハル、者既ニ三十種以上ヲ算スト聞ク。就中各國ニ於テ最力ヲ用フルハ郷土ニ關スル博物館ニシテ都市ニハ必市博物館アリテ、市ノ過去及ビ現狀ヲ一目ノ下ニ瞭然タラシメ、以テ地方研究及ビ愛郷心養成ニ資シ、學校教育及ビ通俗教育ノ基礎トセザルナシ。

惟フニ國運ノ發展ハ地方ノ開發ニ基キ地方ノ開發ハ熱烈ナル愛郷心ト眞摯ナル地方研究トニ俟タザルベカラズ。而シテ市博物館ハ實ニ之ガ絶好ノ機關タラズンバアラス。幸ニシテ本市ニハ圖書館建設資金アリト聞ク。冀クハ此資金ヲ以テ簡易圖書館ニ兼テ市博物館ヲ建設セラレンコトヲ。本會ノ議決ニヨリ及建議候也。

市博物館建設方案概要

- 一、蒐集陳列スヘキ材料
- 1 市史及土地ノ變遷ニ關スルモノ

- 2 位置、地勢、土質、氣象、廣袤、面積、戶口等ニ關スルモノ
- 3 港ノ沿革、並ニ築港及航海ニ關スルモノ
- 4 動植物及礦物ニ關スルモノ
- 5 商工業、水産及其他ノ生産ニ關スルモノ
- 6 重要貨物ノ輸出入價格及其ノ徑路
- 7 金融及其ノ機關ノ利用並ニ貯金ノ狀況
- 8 實業獎勵ニ關スル各種ノ施設
- 9 物價及賃銀ニ關スルモノ
- 10 河川、道路橋梁等ニ關スルモノ
- 11 通信、交通、運輸ニ關スルモノ
- 12 自治機關並ニ選舉ニ關スルモノ
- 13 歳入歳出及諸稅負擔ニ關スルモノ
- 14 基本財産ニ關スルモノ
- 15 公益、慈善及救濟ニ關スルモノ
- 16 上水道及下水道ニ關スルモノ
- 17 衛生ニ關スルモノ
- 18 警備ニ關スルモノ
- 19 風砂防林ニ關スルモノ
- 20 電氣ニ關スルモノ
- 21 兵事ニ關スルモノ

- 22 人物ノ傳記、肖像寫真書畫、事蹟等ニ關スルモノ
 - 23 神社佛閣古蹟及名所ニ關スルモノ
 - 24 風俗習慣ニ關スルモノ
 - 25 冠婚葬祭ノ儀式、慣例、休日制度、勞働上ノ慣習、俚言、俗謠、娛樂等
教育教化ニ關スルモノ
學校、幼稚園、圖書館、巡回文庫、新聞雜誌、教育會、青年會、婦人會、夜學會、公園、運動場、水
泳等
 - 26 其ノ他市ノ地理的歷史的發達並富力活力及市民生活狀態ヲ示スヘキモノ
以上ハ可成實物模型、繪畫、寫真等ヲ用ヒ諸統計ノ如キモ出來得ル限り模型繪畫等ヲ以テ表示シ他市トノ
比較ヲ試ミ且ツ之ニ通俗的説明ヲ加ヘ觀者ヲシテ容易ニ之ヲ理解セシムル様努ムルコト
- 二、附屬圖書室
- 附屬トシテ圖書室ヲ設ケ、陳列品ニ關係アル圖書ハ勿論、本市ニ關スル諸般ノ圖書並ニ市ノ發展ニ資ス
ベキ各種參考書ヲ備付クルコト。
(以下略ス)

二、郷土展覽會ノ開催

前項郷土博物館ノ前驅トシテ、大正三年度ニ於テ郷土展覽會ヲ開催セリ。其概況左ノ如シ。

1 目的 本會ノ目的ハ市民ヲシテ市ノ過去、現狀及將來ノ計劃ヲ知ラシメ、之ニ依リテ愛郷ノ精神ヲ
養ヒ郷土研究ノ趣味ヲ起サシメ以テ市ノ發展ニ資シ、兼テ學校及通俗教育上ニ郷土的材料ヲ提供シ、併
セテ市ヲ廣ク世ニ紹介セントスルニアリ。

2 會期及ビ會場

九月十八日ヨリ二十日マデ三日間
十月十四日ヨリ十七日マデ四日間

新潟商業會議所
新潟物産陳列館本館

3 出品 市内諸官衙、學校、神社、寺院、會社、銀行、組合、工場、教育會、衛生會其他ノ諸團體ニ對シテ出品ヲ依頼シ、尙郷土資料ヲ有セル各個人ニ就テモ一々之ヲ依頼セリ。

4 出品類別及點數 右出品及本會委員ノ調製セルモノヲ合シ陳列點數左記ノ通り。

市史及土地	二八四
市產政	四八
教育業	三三二
衛生	二二六
公益及救濟	四二
雜計	三四
	二七一
	一、二四七

5 觀覽者 頗ル多數ニ上リ七日間ノ總計約一萬五千五十名ニシテ内學生約四千五百五十名ヲ含ム市内重立者ハ勿論折柄開會中ノ斯民會、全國米穀大會、地方改良講習會、產業組合大會、全國水道會議等ノ出席員モ多ク來觀セリ。學生ノ入場ハ尋常小學五年以上ニ限リタリ。

6 經費 一金四拾六圓貳拾四錢

會場設備費

出品調製費	
印刷費	
接待費	
委員諸費	
宿直費	
使丁給費	
雜費	

- 一金參拾七圓五拾六錢參厘
- 一金五拾圓六拾錢
- 一金拾貳圓貳拾五錢
- 一金七拾五圓六拾四錢五厘
- 一金七圓七拾五錢
- 一金九圓五拾錢
- 一金六圓五拾貳錢

合計貳百四拾六圓六錢八厘

7 概評 本會ハ最初ノ試ニシテ、且經費ト準備時日トノ少カリシタメ、會場ノ設備材料ノ蒐集並ニ之ガ發表陳列ノ方法共ニ不充分ナリシト雖モ、此開催ニヨリテ市民ニ郷土ヲ觀念ヲ明確ニ與ヘタルト郷土研究趣味ヲ興サシメタルトハ蓋沒スベカラザル効績ニシテ、且教育上ニ郷土の教材ヲ提供シ、自今所謂郷土中心教育ヲ實現セシムルコトニモ大ニ與リテ力アルベキハ是亦疑ヲ容レザル所ナリトス。

三、郷土展覽會及兒童教養資料展覽會

大正四年度ニ於テハ大體前年度ニ準ジテ再ビ郷土展覽會ヲ開クト同時ニ、同所ニ於テ兒童教養資料展覽會ヲ開催セリ。

兒童教養資料展覽會ノ目的トスル所ハ本市兒童教養方法ヲ改善シ、其効果ヲ大ナラシメンガタメ、遍ク之ガ資料ヲ蒐集陳列シテ市民ノ觀覽ニ供スルニアリ。

右概況左ノ如シ。
1、會場 新潟尋常高等小學校

2、會期 八月十八日ヨリ同二十一日マデ四日間、

3、出品 郷土展覽會出品ハ略前年度ニ同ク、本會委員調製ニカ、ルモノハ幾多改善ヲ加ヘタリ。兒童教養資料ハ新潟醫學專門學校ヲ主トシ市内各縣立學校、市立小學校、私立各學校、縣立圖書館及物產陳列館等ノ出品ヲ求メ尙東京三越吳服店、小口工業株式會社、農商務省商品陳列所 東京教育博物館等ヨリ、器械、器具、學用品、兒童成績品、玩具等ヲ借入レ、又市内各商店ニモ依頼シテ出陳セシメ、其他本會委員ノ調製セルモノヲ陳列シタリ。

4、出品類別及點數

一、郷土展覽會	一七六
土地及市史	一六三
市政	三六〇
教育	三三三
衛生	一一七
產業及交通	一九
公益及救濟	二七六
雜	一、一四四
計	二〇三
二、兒童教養資料展覽會	一一五
育兒衛生	一一〇
教育保護	五
玩具服飾	二〇五

兒童讀物及教育參考書
器械標本繪畫及運動用具
兒童成績品

總計	一八五
九〇四	四一七
三、七七〇	四、九二〇

5、觀覽者 開會前日ニハ特ニ市内重立チタル人士ヲ招待シテ觀覽ヲ請ヒ批評ヲ求メタリ。開會中來觀者約九千百餘名。

6、特別施設

一、兒童教養資料展覽會ノ目的ヲ充分ニ貫徹センガタメ、本會開催中毎夜通俗講演會ヲ開キ育兒衛生玩具及兒童讀物ニ關スル講話ヲナセリ。
(通俗講演會ノ部參看)

二、場内ニ玩具、兒童讀物、教育參考書、及教育用諸器具並ニ飲食物ノ賣店ヲ設ケタリ。

7、經費

一金五拾參圓九拾錢五厘	會場設備費
一金拾八圓六拾壹錢五厘	出品調製費
一金貳拾壹圓拾五錢	印刷及廣告費
一金拾貳圓四拾錢	接待費
一金百壹圓	委員諸費
一金七圓七拾八錢	宿直費
一金參拾八圓九拾壹錢	通信運搬費
	一九

一金參拾圓壹錢
一金五圓七拾六錢

合計 金貳百八拾九圓五拾參錢

8、概評 郷土展覽會ニ於テハ、各種統計表ハ前回ニ比シ大ニ整理セラレ、統一セラレタレドモ、古文書ニ至リテハ陳列棚ノ設備不充分ナリシタメ、陳列意ノ如クナラザリキ。
兒童教養資料展覽會ハ新ナル試ミナルヲ以テ委員ノ心勞多大ナリシカド、觀覽者ノ注意ヲ惹キシヨトモ亦甚深クシテ大ニ好評ヲ博セリ。只出品點數ノ多キニ比シ。陳列室狹隘、陳列棚モ亦不足シテ完全ナル排列ヲナシ能ハサリシヲ遺憾トス。

四、理科工藝及衛生展覽會

時局ニ鑑ミ前年ヨリ通俗講演會ニ於テ理科、工藝及衛生、思想ノ普及ニ務メ來レルガ、大正六年度ニ於テハ更ニ之ニ關スル展覽會ヲ開キテ益々其思想ノ向上ヲ圖レリ。但本會ハ新潟縣衛生會新潟支會ト聯合シテ開催シ、衛生ノ部門ハ專ラ該會ノ任務トシ、教育會ハ理科工藝ノ部門ヲ擔任シタリ。

- 1、會場 新潟縣物產陳列館本館。(階上ヲ理科工藝ノ二部ニ分チ、階下ヲ衛生部トス)
- 2、會期 十月十九日ヨリ同廿一日マデ三日間。
- 3、出品 理科ハ電氣ニ關スル者ニ限リ、工藝ハ製作順序ヲ示スヲ主トシ、衛生品ハ別ニ制限ヲ加ヘズ。右ノ内理科及工藝品ハ市内ニ現在スルモノ尠ク之ガ蒐集ニハ頻ル苦心シ、各縣市立學校水力、水電兩會社、新潟郵便局、濱商店等ヨリ電氣ニ關スル器械器具ノ出品ヲ求メ、又縣立圖書館ヨリ電氣ニ關スル參考書全部ヲ出陳セラレタリ。工藝品ニ至リテハ主トシテ物產陳列館及縣立工業學校ノ出品ニ依リ、衛生品ハ縣衛生會、醫學專門學校、赤十字社支部、齒科醫師會、藥劑師會等ヨリ夫々

雜 雜

二〇
費 給

4、出品類別及點數

出品アリアリ。	
理科部	三八八
工藝部	五〇三
衛生部	五〇七
計	一、三九八

5、觀覽者 觀覽者頗ル多數ニシテ場内雜沓ヲ極メ、特ニ最終日ノ如キハ入場者一萬以上ニ達スルノ盛況ヲ呈シタリ。三日間ノ入場者 合計 一萬六千八百三十二名、

6、特別施設

一、本會ノ特色ハ理科部ニ於ケル實驗ナリトス。乃チ觀ル者ヲシテ任意ニ實驗セシムル外、特ニ暗室ヲ設ケテX線其他ノ實驗ヲ行ヒタリ。是等ハ觀覽者ノ大ニ歡迎セル所ニシテ、又最有効ナリシヲ認ム。

二、本會ト連絡シテ理科、工藝及衛生ニ關スル通俗講演會ヲ開キタルコト前年ニ同ジ。(通俗講演會記事參看)

7、經費

一、理科、工藝部
一金五拾四圓六拾八錢
一金拾四圓九拾六錢
一金參圓八拾九錢
一金壹圓七拾錢

會 場 費
實 驗 費
印 刷 費
廣 告 費

一金五圓貳錢
 一金七圓拾五錢
 一金貳圓七拾壹錢五厘
 一金四拾九圓九拾錢五厘
 合計 金百四拾圓〇貳錢
 一、衛生部
 一金八拾圓

通信運搬費 二二二
 雜務所給費
 雜務所費
 費費

內譯略ス

8、概評 既記ノ如ク市内ニ於テハ電氣ニ關スル資料豐富ナラザルヲ、以テ從テ陳列品ハ一見貧弱ノ感アリシト雖之ガ排列ノ順序ヲ正シ、且實驗ニ重キヲ置キタルヲ以テ其效果多大ナリシヲ認ム更ニ理科専門ノ展覽會開催ヲ希望スルモノ多キモ是ニ原因セルナラン。
 工藝品ノ排列ニ對シテモ苦心ヲ重ネ、整然トシテ一見了解シ得ラル、樣務メタルニモ拘ラズ、觀覽者ノ之ニ注目スルモノ多カラザリシハ遺憾トスル所ナリ。
 衛生品ニツイテハ當初積極的の体力増進ニ關スル參考資料ヲ多ク出陳センコトヲ期シタレドモ、意ノ如クナラズ、從來各地ニ行ハレタル此種展覽會ト其軌ヲ一ニセリ。
 要スルニ本會ハ僅少ナル經費ヲ以テ經營シ、資料蒐集ノ上ニハ意ノ如クナラザリシモノアリシト雖之ガ排列ニ注意シ、説明ヲ懇切ニシ、加フルニ實驗ヲ以テスル等務メテ觀覽者ノ便益ヲ圖リタルニヨリ、來觀者頗ル多數ニ上リ、其效果ノ大ナリシハ一般ニ認メタル所アリ。

(4) 巡回文庫

一、理髮業者巡回文庫

(1) 目的

市内理髮店ニ巡回文庫ヲ設ケ、市民ヲシテ理髮店ニ待合スル時間ヲ利用シテ之ヲ閱讀セシメ以テ讀書趣味ヲ喚起シ、修養ニ資シ兼テ娛樂ヲ得シメス

(2) 創設

大正四年一月二十日

(3) 規程

第一條 市内理髮業者中ノ有志ヲ以テ巡回文庫組合ヲ組織セシメ、之ヲ若干ノ文庫區ニ分チ組合員各自ニ文庫一ケツ、ヲ配布シ、各文庫區毎ニ序ヲ追フテ巡回セシムルモノトス。
 第二條 一文庫區ノ組合員ハ十二名ツ、トシ、若シ端數ヲ生ジタルトキハ便宜ノ處置ヲナスモノトス。
 第三條 文庫ノ留置期間ハ一ヶ月トシ、別ニ支メタル廻送順序ニヨリ毎月十七日ヲ以テ受渡ヲナサシメ文庫區一周ノ後ハ一先本會ヘ返納セシム。
 本會ハ右返納ヲ受ケタルトキハ、直ニ圖書ノ修理及補充ヲナシ、文庫區ヲ變換シテ之ヲ配布スルモノトス。
 但本文庫廻送及返納ハ圖書ニ限り、圖書函ハ最初配布ヲ受ケタル組合員ニ於テ之ガ保管ノ責ニ任ズルモノトス。

第四條 圖書留置期間ハ該組合員ニ於テ其保管ノ責ニ任ズルモノトス。

第五條 圖書廻送ノ際ハ目錄ト照合シ、組合員各自備附ノ帳簿ニ受渡ノ証明ヲナスベシ。

若シ事故アルトキハ直ニ本會ニ報告スルモノトス。

第六條 組合員ハ文庫經費トシテ一ケ年金參拾錢ヲ本會ニ納付シ、臨時特別ノ經費ヲ要スルトキハ協議ノ

上應分ノ出金ヲ爲スモノトス

第七條 會長ノ囑托ニヨリ委員若干名ヲ置キ巡回文庫ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム。

(4) 委員

薄田多七 林 靜治 江部大作
尾崎貞助 吉田 涉 武田勇進

外ニ各文庫區ニ世話係一名ツ、ヲ置キ組合員中ヨリ選任ス

(5) 文庫區及組合員數

區	大正四年	同五年	同六年	同七年
第一文庫區	一四	一四	一四	一三
第二文庫區	一一	一一	一一	一一
第三文庫區	一一	一一	一一	一一
第四文庫區	一一	一一	一一	一一
第五文庫區	一一	一一	一一	一一
第六文庫區	一	一一	一一	一一
計	六〇	八四	八四	八二

(6) 經費

費目	創設費	大正四年度	同五年度	同六年度
圖書費	二一〇、二八	九九、〇六	七六、七一	八五、一四〇

7、圖書類別冊數

類別	創設當時	大正七年
圖書函費	四五、六〇	一九、〇〇
印刷費	七、八六	四、九〇
雜費	一一、二〇	六、〇六
計	二七五、九四	一二九、〇二

創設當時

大正七年

- 第一類 (修身、教育、宗教、哲學類)
- 第二類 (歴史、地理、傳記、紀行類)
- 第三類 (文藝、講談、お伽噺類)
- 第四類 (理科、衛生、實業、經濟類)
- 第五類 (雜)

計

(8) 成績概要

本巡回文庫ハ既ニ三期巡回ヲ終了シテ現ニ第四期巡回中ナリ。其成績概シテ良好ナルヲ認ム、閲讀者ノ多キハ圖書小口ノ手ズレ及手垢ヲ見テ之ヲ察知スベク當業者ハ本文庫ニ對シテ大ニ満足ノ意ヲ表シツ、アリ。只遺憾トスル所ハ屢次組合員ノ注意ヲ促スニモ拘ラズ紛失圖書ノ尠カラザルコト是ナリ。其冊數左ノ如シ。

第一期

四三

第二期
第三期
計

六四
六四
外ニ破損二八冊
一七一

二六

二、積善組合巡回文庫閱覽所

本會ハ通俗教育普及ノ一端トシテ、當市積善組合ト合議ノ上、該組合巡回文庫閱覽所ヲ、鏡淵、豊照、湊、沼垂ノ各小學校内ニ設ケ、本會管理ノ下ニ一般市民ノ閱覽ニ供スル事トセリ。
文庫留置期間ハ二ヶ月ニシテ閱覽時間ハ平日ハ小學校放課後、休日ハ全日トシ、夜間ハ公開セズ。成績左ノ如シ。

閱覽冊數	閱覽人員		大正三年	同四年	同五年	同六年
	學生	其他				
八四一、〇八八	三六、〇二二	五、六三一	二六、九七一	三、六八二	一七、五五九	一一、九一七
	六〇五	三三一、二五	四五一	三一、一〇四	八六〇	二、〇二七
			四〇、八二二		二一、七六三	四一五
					三九、七四七	一五、三五九
						二四、九三八

(5) 職業的教育施設

一、短期講習會規程

- 第一條 講習科目ハ商事要項商業簿記、工作法、(木工、金工)建築、染織、水産、製圖、圖案等ノ内ヨリ適宜選定スルモノトス。
- 第二條 講習期間ハ一回十日以内トス。
- 第三條 講師ハ會長ニ於テ適宜囑托スルモノトス。
- 第四條 講習員ハ從業者有志トス。但時宜ニヨリ從業者ニアラズト雖聽講ヲ許スコトアルベシ。
- 第五條 會場ハ學校又ハ工場等ヲ借用シテ之ニ充ツルモノトス。
- 第六條 本會事務處理ノタメ、委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑托ス。

二、第一回講習會

- 一、科目 木材着色法
- 二、會場 新潟縣物産陳列館内。
- 三、會期 大正五年五月十八日及十九日。
- 四、講習時間 兩日共午前九時ヨリ午後五時マデ。
- 五、講師 岡山縣齋藤傳藏。
- 六、講習員 四十八名。(關係實業家三六小學校教員一二)
- 七、講習事項 藥品木材彫刻法。

木材着色法。
木竹屈曲法並ニ竹材開展法。

木材ノ龜裂ヲ防グ法。
右要邊ヲ印刷シテ講習員其他ニ頒布セリ

三、第一一回講習會

- 一、科目 店頭裝飾法
- 二、會場 新潟商業會議所
- 三、會期 大正五年八月一日ヨリ同三日マデ
- 四、講習時間 毎日午後七時ヨリ同十時マデ
- 五、講習員 五十九名(商店主若クハ店員ヲ主トス内小學校教員五名)
- 六、講師 新潟縣工業技師長谷川剛之允
- 七、講習事項
 - 1、店頭裝飾ノ發達
 - 2、店頭裝飾ノ目的
 - 3、店頭ノ裝飾的設備
 - 4、店窓ノ裝飾陳列法
 - 5、陳列裝飾ノ原則
 - 6、雜件

右講演速記ヲ印刷シテ講習員其他ニ頒布セリ

四、前記兩講習會經費

- 一金五拾四圓九拾錢 講師報酬及車馬賃
- 一金七圓七拾錢 實習用品代
- 一金七圓四拾錢 印刷費
- 一金拾圓四拾六錢 雜給
- 一金拾壹圓拾參錢 雜費
- 計金九拾壹圓五拾九錢

(右經費ノ內金四拾參圓拾錢ヲバ市勸業獎勵費中ヨリ特別ニ補助セラレタリ)
外ニ講演印刷物頒布費貳拾六圓七拾錢

五、店頭裝飾競技會

前年開キタル店頭裝飾法講習會ハ頗ル良好ナル結果ヲ招キ、市内店頭裝飾ノ見ルベキ者漸次増加セルヲ以テ此際更ニ同競技會ヲ開キテ獎勵ヲ加ヘンカ益々其發達ヲ速ナラシムルヲ得ベシトテ、新潟商業會議所及各新聞社ト協議ノ上、大正六年度ニ於テ之ヲ決行スルコト、シ、同年五月趣意書及ビ規程ヲ發表シテ會員募集ニ着手シタリ

1、規程

新潟市店頭裝飾競技會規程

- 第一條 本會ハ市内商店ニ於ケル店頭陳列並ニ裝飾方法ノ改善進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 (略ス)
- 第三條 本會ハ大正六年六月二十二日ヨリ七月一日ニ至ル十日間左記地區ノ各店舗ニ於テ之ヲ行フモノトス

本町通(横七番町一丁目ヲ加フ)古町通
營所通及ビ其附近、桎谷小路
西厩島町及ビ其附近、湊町

沼垂(萬代橋詰ヨリ國道ニ沿フテ白山社ニ至ル間)
第四條 (略ス)

第五條 加入者ハ本會ヨリ交付スル標章ヲ會期中其店頭見易キ處ニ掲グルモノトス
第六條 審査ハ六月二十三日ヨリ同月二十五日ニ至ル間ニ於テ晝夜二回加入者ノ店舗ニ就キ左記諸項ニ

リ之ヲ行ヒ其結果ハ同月二十六日發表スベシ(聯合各新聞紙上ニ掲載ス)

一、店內外ニ於ケル商品ノ陳列並ニ裝飾
二、店窓、看板及ビ陳列棚ノ位置並ニ設備
三、商品ト裝飾並ニ點燈トノ關係

第七條 審査ノ結果優良ナルモノハ(人員ニ制限ナシ)左ノ等級ニ分チ之ヲ褒賞ス
一 等 褒狀及ビ賞品
二 等 同
三 等 同
四 等 褒 狀

第八條 加入者ハ審査ノ決定ニ對シ、異議ノ申立ヲナシ又ハ褒賞授與ヲ拒ムコトヲ得ズ
2、會長、委員及審査員

- 會長 坂本有隣
- 委員 薄田多七
- 小林長四郎
- 黒瀬繁太郎

- 審査員 風間 正太郎
- 長谷川 銅之允
- 藤 卷 清次郎
- 竹 田 正 巳
- 林 靜 治
- 各新聞市政記者

3、加入者 六十一名
4、審 查 第一次ニ於テ三十名ヲ選拔シ、第二次ニ於テ大體等級ヲ決シ、尙夜間審査(第三次)ヲ行ヒタル上、最終審査會ヲ開キ等級及ビ順位ヲ確定セリ

5、褒賞人員
一 等 銀杯一個 四 人
二 等 木杯一組 五 人
三 等 木杯一個 九 人
四 等 褒 狀 十二 人

6、褒賞授與式 七月二日商業會議所ニ於テ舉行、式辭、審査報告、褒賞授與、祝辭(勸業課長、市長、商業學校長、商業會議所會頭)答辭等アリタリ

7、經 費	審 查 費	二九、五七〇
	授 賞 費	四九、八四〇
	印 刷 費	六、六九〇
	記 念 帳 代 費	九、〇〇〇
	標 旗 代 費	一七、五〇〇
	雜 費	三、七二五
計		一一六、三二五

8、概 評 成績ノ完全ナルモノハ認めザリシモ、第一回ノ催シトシテハ良好ナル方ナリキ、且之ニヨリテ當業者ハ勿論、市民全般ニ店頭裝飾ニ關スル注意ヲ惹起セシメタル効ハ尠少ナラズト信ズ

(6) 郷土歌作製

正二年十一月開會ノ本會常集會ニ於テ郷土歌ヲ作製スルノ議出デ左記ノ通り決定ス
郷土歌ハ學校用通俗用ノ二種トスルコト
學校用ノ分ハ文部省ノ認可ヲ得テ市内各學校ニ採用センコトヲ期ス
作歌及作曲ハ専門家ニ依頼スルカ懸賞募集ヲナスカハ役員ニ一任ス
右決議ニヨリ同年十二月會長ハ實行委員六名ヲ囑托シ、委員ハ協議ノ上、大正參年度ニ於テ先學校用市歌ヲ懸賞募集セシモ、審査ノ結果選ニ入ルベキモノナカリシヲ以テ、大正五年度ニ至リ更ニ郷土俗語ヲ懸賞募集スルコト二回、其應募歌數四百八十九首中ヨリ追分四首、盆歌二首、都々逸十首ヲ選ビ、之ヲ印刷シテ各方面ニ頒チ、大正六年度ニ於テ三度郷土俗語ヲ懸賞募集シ、其應募歌二百六十一首中ヨリ追分五、盆歌七首ヲ選ビ、再之ヲ印刷シテ各方面ニ頒布セリ、而シテ學校用市歌ハ大正六年度ニ至リ某氏ニ作歌ヲ依頼セルモ未ダ成ラズ、本會選郷土俗語左記ノ通り

追分

- ◎右に粟生島左に佐渡の中をおぬしの船がゆく、
- ◎櫂をゆるめて入り来る白帆招く船江の糸柳、
- ◎櫓のおともゆるくきこえて船江の春は霞む粟生島ねむる佐渡、

- ◆匂ふ櫻に媚く柳戀し船江の春の月、
- ◆ぬしの入舟つい待ちかねてまたものぼるよ日和山、
- ◆投ぐる纜柳に結び船と新潟は解けぬ縁、
- ◆吹くも嬉しやみゆきが岡に千代のためしの松の風、
- ◆新潟をあとに出てゆくあの船唄をにくやへだてるなみのおと、
- ◆夢の様なる景色を眺め主どうつゝの日和山、

盆歌

- ◆新潟砂山小松をそだて、鶴をよびませう女夫づる、
- ◆樽をたよげば佐渡までひびく、夏は寄居の濱踊、
- ◆碓下せば早や氣が勇む、花の新潟に樽の音、
- ◆新潟白山花時よりも、盆の花笠なほ見事、
- ◆松の露ちる常磐が岡に、昔忍ぶか虫も鳴く、
- ◆濡れてしをく雨ふる(古)町を、燕可愛や鳴いてゆく、
- ◆鱒曳く網見ながら一寸主と、寄居の濱の茶屋、
- ◆前どうしろに海川ひかへ、涼し新潟は扇形、
- ◆梅も植ゑませう櫻も咲かさう、花の新潟見にござれ、

都々逸

- ◆春は白山櫻にあけて、きくもゆかしい鈴のおと、
- ◆浮ぶ白帆を模様に見せて、帯と流るゝ信濃川、
- ◆橋と柳の舟江の町を、とんでゆきかふ濡れ燕、

- ◆ 櫻花さきや柳は烟る、新潟繪になるうたになる、
- ◆ 石の玉橋白山様へ、かたい願ひにふむ百度、
- ◆ 鷗浮くやうな白帆がみわた、眉をひいたる佐渡が島、
- ◆ 簾あげれば彌彦のやまよ、信濃川原のすゝみふね、
- ◆ なろか素通り新潟のまちを。見やれ柳があれ招く
- ◆ 新潟港の入船出船、戀のおもにも積む船頭、
- ◆ 名残をしんで新潟をうけりや、船もすねてか帆がきかぬ、

(7) 體育施設

一、運動場設置及海岸ニ通ズル道路修築

市内數ヶ所ニ運動場ヲ公設シ、又運動及海水浴ノ便ヲ圖ルタメ海岸ニ通ズル道路ヲ修築セラレシコトヲ市長ニ建議セルニ、前者ハ大正六年度ニ於テ湊小學校舊敷地ヲ以テ之ニ充テ。後者ハ大正三年度ニ於テ寄居濱、廣小路濱、日和山下濱等ニ通ズル道路ヲ修築セラレタリ

二、運動器具設置

運動器具ハ集中主義ヲ執ラズ、可成各所ニ散在セシメンコトヲ期シ大正五年以來本會ニ於テ設備セルモノ左記ノ通り

- 1、白山公園内 鐵棒、攀登木、相撲土俵
- 2、大圓寺堀埋立地 鐵棒、攀登木

3、諏訪神社境内

鐵棒、相撲土俵

三、游泳教授

大正五年度ヨリ開始、其施設概況左ノ如シ

1、游泳場 日和山下濱廣小路濱及ビ學校町裏濱ノ三ヶ所。(市小學校水泳場へ依託)

2、期間 七、八兩月間毎日午後約二時間ツ。

3、實施事項 游泳法ノ教授及練習。遠遊。

4、指導及監督 市小學校水泳教師ニ囑托ス。

5、練習生 大正五年度男六十四名。

同六年度男四十九名。

6、成績 イ、體力増進及精神修養。

ロ、技術

高等科卒業

一級	二級	三級	四級	五級	右ノ内遠遊證明書ヲ授與セルモノ
二	五	一七	一七	五四	八名

大正五年度
大正六年度

二四、七五
二四、一〇

三六

四、體育獎勵會

大正六年五月、本會ノ主唱ニ依リ、本會ヲ始メトシ、軍人分會、衛生會、青年會ノ各團體聯合シテ體育獎勵會ヲ組織シ、市民ノ體力ヲ増進シ、元氣ヲ振作センコトヲ努メタリ。

1、會 則

○新潟市體育獎勵會々則

第一條 本會ハ市民體力ノ増進ヲ圖リ、元氣ヲ振作スルヲ以テ目的トス。

第二條 本會ハ新潟市教育會、帝國在郷軍人會新潟市分會、新潟縣衛生會新潟支會、新潟青年會、沼垂青年協會聯合シテ之ヲ組織ス。

第三條 本會ハ新潟市體育獎勵會ト稱ス。

第四條 本會事務所ハ之ヲ市役所内ニ置ク。

第五條 本會ニ於テ經營スベキ事業左ノ如シ。

一、運動場及ビ運動器械ヲ設クルコト。

二、劍道、柔道、射擊、銃劍術、水泳、相撲及ビ其他ノ運動ヲ獎勵指導スルコト。

三、體育ニ關スル講演會ヲ開クコト。

四、毎年各種競技會ヲ開催スルコト。

五、其他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナリト認メタル事項。

第六條 本會ノ事業ヲ經營シ、一切ノ事務ヲ處理スルタメ聯合團體ヨリ委員五名ツ、選出スルモノトス

前項委員中ヨリ常任委員五名ヲ選定シ、本會事業ノ企畫及ビ常務處理ニ任ゼシム、常任委員ハ各團體委員ノ互選トス。

第七條 本會ニ會長副會長各一名ヲ置ク。

會長ニハ市長ヲ推シ、副會長ハ委員會ニ於テ推薦ス。

會長ハ本會ヲ統理シ、副會長ハ會長ヲ補佐シ、會長事故アル時ハ之ヲ代理ス。

第八條 副會長及ビ委員ノ任期ハ各二ケ年トス。

第九條 本會ニ書記一名ヲ置キ、會長及ビ常任委員ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事セシム。

書記ハ會長之ヲ選任ス。

第十條 會長ハ必要ニ應ジテ臨時委員ヲ囑托スルコトヲ得。

第十一條 委員會及ビ常任委員會ハ必要ニ應ジテ隨時之ヲ開ク。

第十二條 本會ノ趣旨ヲ賛シ、五ケ年以上毎年金壹圓ツ、醸出スル者ヲ以テ贊助會員トシ、同ク毎年金參圓以上醸出スル者ヲ以テ特別贊助會員トス。

第十三條 本會經費ハ、聯合各團體ノ負擔金、及贊助會員特別贊助會員ノ醸出金ヲ以テ支辨ス。

第十四條 本會ハ毎年四月、事業成績、經費、其他ノ狀況ヲ聯合各團體、及贊助會員、特別贊助會員ニ報告スルモノトス。

第十五條 本則ノ改正加除ハ、委員會ノ決議ニヨリ、聯合各團體ノ承認ヲ經ルヲ要ス。

2、本會 選出 委員

三木 常吉 山田 直治 五十嵐巳之松 薄田 多七 今成 留之助

3、大正 六年度 事業

(一) 市民陸上運動會 六月六日醫學專門學校運動場ニ於テ開催、二百二十碼、四百四十碼、八百八十

- (一) 碼、各競走、障礙物競走、走幅飛及砲丸投ヲ行フ、競技回数六十二回、一回十二名乃至十五名
- (二) 市民游泳大會 八月十六日寄居濱ニ於テ開催、五十碼、百碼、二百二十碼、四百四十碼各競游百碼背游及潜水ヲ行フ、競技回数三十七回、一回八名乃至十名
- (三) 市民相撲大會 九月二十三日新潟小學校運動場ニ於テ開催、一般取組、三人拔、五人拔、幕内格三役相撲等合セテ百十五回ノ取組アリ
- (四) 市民武道大會 二月十一日武德殿ニ於テ開催、劍道三本試合、同輪轉試合、柔道二本試合、同輪轉試合、銃劍術三本試合、同輪轉試合ヲ行フ、競技回数百四十八回
- (五) 賞牌寄附 運動獎勵ノタメ各種競技會へ本會制定賞牌ヲ寄贈セルモノ左ノ通り。

近縣聯合野球大會。(醫學專門學校主催)醫學專門學校運動會、コンマーシアル俱樂部主催野球大會

○射的大會(軍人分會主催)

- 5、經費 總額金 五百六圓九拾九錢五厘
- 內 寄附金 參百參拾九圓
- 本會負擔金 七拾圓
- 他四ヶ團體同 八拾圓
- 一時借入金 拾七圓九拾九錢五厘

(8)、活動寫眞調査

常ニ活動寫眞館ニ於ケル映畫、辨士ノ説明及態度、並ニ館内ノ風儀衛生等ヲ調査シ、若シ風教及衛生上ノ障

害ヲ發見スルトキハ、之ヲ學校、家庭等ニ通告シテ注意ヲ促スノ必要ヲ認メ、大正四年度ヨリ調査委員ヲ常設シテ時々市内活動寫眞館ヲ視察セシムルコト、セリ。

- 1、委員 薄田多七 太田富弋 尾崎貞助 藤田福太郎
- 武田勇進

2、第一回委員報告

○活動寫眞ニ關スル意見

活動寫眞ニハ長所モアリ短所モアリ、其利益尠カラザルト同時ニ又弊害ノ之ニ伴フモノアルヲ以テ、吾人ハ努メテ其ノ害毒ヲ除去シ其長所ヲ利用センコトヲ期シ、茲ニ本市活動寫眞實際調査ノ結果ニ基キ他府縣都市ノ狀況ヲモ參考シテ定メタル吾人ノ意見ヲ發表シ、以テ大方ノ教示ヲ乞ハントス。

一、映畫ニ就テ

善良ナル映畫ヲ採擇シ、其不良ナルヲ排斥スベキハ言フマデモナキコトナルガ、然ラバ其採擇スベキ映畫ノ種類及ビ其概シテ不良ナルハ如何ナルモノカ

1、採擇スベキ映畫

イ、各國ノ風景、風俗、産業、國家ノ祝典其他最近ノ出來事、陸海軍ノ狀況及ビ動植物等ニ關スル實寫。

ロ、歴史、傳記ヨリ採レル善良ナルモノ、

ハ、忠臣、孝子、烈婦、義僕及ビ其他教訓ト趣味トヲ含メル事實若クハ假想的ノ者。

ニ、醫學、體育、衛生ニ關スルモノ

ホ、上品ナル滑稽諧謔ニ富メルモノ

2、不良ナル映畫

- イ、殘忍性ヲ帶ブルモノ。
 - ロ、惡戯惡行ヲ誘發スルモノ。
 - ハ、卑猥ナルモノ。
 - ニ、青年男女ノ戀情ヲソ、ルモノ
 - ホ、粗製、不鮮明ナルモノ。
- 二、説明ニ就テ
- イ、辨士ノ態度言語ノ上品ナルヲ要ス。
 - ロ、社會ノ風教ニ留意スルヲ要ス。
- 三、興行ノ時間ニ就テ
- イ、夜間ノ興行ハ可成午後十時後ニワタラザルコト。
 - ロ、晝間ハ三時間以内トスルコト。
- 四、衛生ニ就テ
- イ、換氣ヲ充分ナラシムルコト。
 - ロ、晝間ハ特ニ注意ヲ要ス。
 - ハ、便所ノ消毒防臭ニ注意スルコト。
- 五、映畫檢閱ニ就テ
- イ、映畫檢閱ノ際ハ教育的團體ヨリ選出ノ委員ヲシテ立合ハシムルコト。
- 六、兒童ノ觀覽ニ就テ
- イ、觀覽回数ヲ少カラシムルコト。
 - ロ、觀覽時間ヲ少カラシムルコト。

ハ、成ルベク父兄同伴スルコト。

七、子供日ニ就テ

子供日ヲ設ケ彼等ヲシテ此日ニ限り觀覽セシムルコトハ教育上最得策ナリト思惟ス。而シテ之ヲ實施スル場合ニハ左記事項ニ注意スルヲ要ス。

- イ、子供日ハ日曜及ビ祭日ノ晝間ヲ選ブベキコト。
 - ロ、子供日以外ノ觀覽ヲ禁止スルコト。
 - 右取締ニハ學校、家庭及ビ警察協同シテ之ニ當ルコト。
 - ハ、映畫ハ既記ノ外特ニ子供ヲ中心トシタルモノヲ選ブコト。
 - ニ、興行及映寫時間ヲ短クスルコト。
 - ホ、特ニ説明ニ注意スルコト。
 - ヘ、特ニ換氣ニ注意スルコト。
 - ト、觀覽料金ヲ少クスルコト。
 - チ、館内ニ於テ飲食物ヲ販賣セザルコト。
- 尙進シテハ

八、視察監督ニ就テ

- 1、縣市若クハ教育的團體ヨリ經營者ニ對シテ助力スルコト。
 - 2、各市聯合シテ教育的映畫供給ノ法ヲ講ズルコト。
- イ、不良映畫ノ取締及ビ辯士ニ對スル監督ヲ嚴ニセラレンコトヲ其筋ニ建議スルコト。
- ロ、教育者及ビ學校醫ハ常ニ活動寫真館ヲ視察シテ其改善ニ務ムベキコト。
- 教育上又ハ衛生上不良ノ影響ヲ及ボス虞アリト認メタル事項ハ適宜ノ方法ニヨリ之ヲ發表シテ市民

ノ注意ヲ促スコト

3、活動寫真調査委員視察結果概要

(自大正五年五月七ヶ月間
至同年十二月七ヶ月間)

一、視察回数

六九

一、視察映畫數

二七二

内 善良ナリト認メタルモノ

九九

劣惡ナリト認メタルモノ

五五

右説明ノ善良ナリシモノ

八〇

拙惡ナリシモノ

二一

一、館内風儀

善良ナリシコト

三一回

不良ナリシコト

四回

一、館内衛生

善良ナリシコト

二七回

不良ナリシコト

八回

一、觀覽者概數

大人

一九三四三

一回平均

二八〇

小兒

六〇九六

一回平均

八八

4、小學校兒童活動寫真觀覽調査摘要

(自大正五年九月三ヶ月間
至同年十一月三ヶ月間)

兒童總數

一一〇七九

觀覽兒童數

實人員 七一八八

此步合 六四、八八

延人員 二七九一四

一人平均觀覽回数 四回弱

平均一日觀覽兒童數 三〇七人弱

(9)、通俗教育施設調査

各地通俗教育施設ヲ調査シテ本會施設ノ參考ニ供シ、改善進歩ヲ圖リツ、アリ。之ガタメ委員ヲ出張セシメ
タルコト左ノ如シ

- 一、大正二年十月帝國教育會主催通俗教育施設ニ關スル講習會へ一名
- 二、大正三年四月大正博覽會へ一名
- 三、大正四年四月子供博覽會、教育博物館、商品陳列所等へ一名
- 四、大正五年十一月山形縣主催共進會並ニ東北各縣視察トシテ一名
- 五、大正四年十一月京都府教育會主催通俗教育大會へ一名
- 六、大正四年五月新發田町へ委員二名
- 七、大正六年十一月化學工業博覽會、發明品展覽會へ委員一名

(10)、印刷物頒布

本會ニ於テ大正四年以來各方面へ頒布セル印刷物左ノ如シ

- 一、通俗教育施設ノ概要。
- 二、店頭裝飾法。
- 三、木材彫鐫法及着色法。
- 四、郷土俗謠。
- 五、市誌摘要。

(1) 通俗教育部總經費

四四

一、大正二年度

- 一金七拾五圓參拾六錢
- 一金拾四圓
- 一金拾五圓貳錢五厘

計金百四圓參拾八錢五厘

- 通俗講演會費
- 通俗教育講習手當
- 印刷其他諸雜費

二、大正三年度

- 一金百參拾六圓貳拾五錢五厘
- 一金貳百四拾六圓六錢八厘
- 一金貳百七拾五圓九拾四錢
- 一金參拾圓
- 一金拾七圓五拾四錢

計金七百五圓八拾錢參厘

- 通俗講演會費
- 展覽會費
- 巡回文庫費
- 施設調查費
- 鄉土歌設定費

三、大正四年度

- 一金貳百參拾圓四拾壹錢
- 一金貳百八拾九圓五拾參錢
- 一金百貳拾九圓貳錢
- 一金五圓
- 一金參拾八圓四拾貳錢

- 通俗講演會費
- 展覽會費
- 巡回文庫費
- 活動寫真調查費
- 印刷物頒布費

四、大正五年度

- 一金參拾圓
- 一金參拾圓
- 計金七百五拾貳圓參拾八錢
- 一金百貳拾貳圓九拾七錢五厘
- 一金八拾六圓八拾六錢五厘
- 一金九拾壹圓五拾九錢
- 一金百四拾八圓八錢
- 一金貳拾八圓六拾參錢
- 一金六拾錢
- 一金貳拾六圓七拾錢
- 一金參拾圓
- 一金七圓四拾四錢五厘

- 施設調查費
- 通俗教育大會出席旅費

五、大正六年度

- 一金百參拾六圓九拾貳錢
- 一金四拾九圓
- 一金百壹圓七拾錢
- 一金百四拾圓貳錢
- 一金百拾參圓九拾五錢
- 一金百拾六圓參拾貳錢五厘

- 通俗講演會費
- 巡回文庫費
- 短期講習會費
- 體育施設費
- 鄉土歌作製費
- 活動寫真調查費
- 印刷物頒布費
- 施設調查費
- 展覽事業費
- 通俗講演會費
- 活動寫真會費
- 巡回文庫費
- 展覽會費
- 體育施設費
- 店頭裝飾競技會費

四五

一金參拾七圓四拾五錢
 一金拾八圓六拾錢
 一金貳拾圓
 計金七百參拾參圓九拾六錢五厘

四六
 鄉土歌作製費
 印刷物頒布費
 施設調査費

(12) 大正七年度計劃

一、通俗講演會

- 一、本年度講演題目ヲ豫定スルコト左ノ如シ。
 但臨時必要ニ應シ他ノ事項ヲ採擇スルコトアルベシ。
- 1、理科ニ關スル事項。
- 2、産業ニ關スル事項。
- 二、本年度講演ハ一回講演、繼續講演、及ビ婦人會ノ三種トシ、其回数ハ約延二十回トス。
 期日及ビ會場ハ實行委員ニ於テ便宜之ヲ定ムルモノトス。
- 三、講師ハ毎回一人ヲ常例トス。
- 四、餘興ハ委員ニ於テ適宜加フルコトアルベシ。
- 二、巡回文庫
- 一、本會經營ノ理髮業者巡回文庫ハ本年度ニ於テハ專内容ノ改善及閱覽獎勵ニ力ヲ致スコト。
- 三、展覽會
- 一、本年度開催ノ展覽會ハ理科ニ關スル智識ヲ普及セシムルヲ以テ目的トス。

一、會期ハ八月中トス。

一、會場ハ小學校トス。

一、本會ニ陳列スベキ資料及ビ開會期間ハ實行委員會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス。

四、體育施設

- 一、軍人會、衛生會、青年會等ト聯合シテ市民運動會ヲ開催スルコト。
- 二、市民有志者ニ游泳ヲ教授スルコト。
- 三、湊小學校跡ナル遊園ニ運動器械ヲ備付クルコト。

五、市歌作製

一、適當ナル人ニ依頼シテ歌詞及歌曲ヲ作製スルコト。

六、活動寫真調査

一、市内活動寫真常設館ニ就キ時々實地調査ヲナシ教育上注意スベキ事項ヲ發見スルトキハ機宜ノ處置ヲナスコト。

七、印刷物頒布

一、本會通俗教育施設要領、市歌、活動寫真ニ關スル注意、其他市民教育上必要ト認メタルモノヲ印刷シテ之ヲ頒布スルコト。

八、通俗教育施設調査

一、通俗教育施設ニ關スル調査研究ヲナスコト。

九、通俗教育部經費豫算

一金百六拾圓
 一金六拾八圓
 一金貳百五拾圓

通俗講演費
 巡回文庫費
 展覽會費

一金百五拾五圓
 一金五拾圓
 一金五圓
 一金六拾圓
 一金貳拾圓
 一金拾圓

四八
 體育獎勵費
 作歌費
 活動寫真調查費
 印刷物頒布費
 通俗教育施設調查費
 雜費

計金七百六拾八圓

一〇、實行委員

通俗教育部ヲ左ノ四部ニ分チ、會長ノ囑托ニヨリ各部ニ實行委員若干名ヲ常設ス。
 實行委員ハ委員長及常任委員ヲ輔ク、各部一切ノ事務ヲ處理スルモノトス

1、庶務部

江部 大作 櫻井 彰 藤田 福太郎 太田 富弼
 尾崎 貞助 武田 勇進 吉田 涉

2、講演部

小池 恒次 福田 仁作

3、展覽事業部

瀬賀 虎三 金川 禎英 濱田 忠吉 君 修一郎
 早川 正策

4、體育部

梅澤 幸吉 山田 直治 樋口 正勝

大正七年五月廿九日印刷
 大正七年六月二日發行

非賣品

新潟市學校町通二番町五九六番地

編輯人 薄田 多七

全 市東堀前通十一番町

印刷者 澁谷 末吉

全 市西堀前通七番町

印刷所 新潟新聞社

終